

# MAPPSS

Newsletter from MAPPSS  
頑張れ、ミュージアム。

No.24

2026.02



早稲田システム開発株式会社

東京都新宿区高田馬場4-40-17  
TEL:03-6457-8585  
<http://www.waseda.co.jp/>

## CONTENTS

ミュージアムITトピック

「デジタルミュージアム・デジタルアーカイブ 事例データベース」を開設しました

ミュージアムITトピック

100周年を目指して、区民とともに育てるデジタルアーカイブ  
目黒デジタルアーカイブ100

ミュージアムITトピック

小さく生んで大きく育てる、持続可能なデジタルアーカイブ  
長井市デジタルアーカイブ

ミュージアムITトピック

入門者からディープなファンまで、誰にも使いやすいデジタル図録  
杉浦非水デジタルアーカイブ

ミュージアムITトピック

データベースを活かした奥行きあるコレクションページ  
三菱一号館美術館

お知らせ

Web API活用のススメ

ミュージアムITトピック

## 「デジタルミュージアム・デジタルアーカイブ 事例データベース」を開設しました

デジタルミュージアム／デジタルアーカイブを構築したいけれど、どんなものを作ればよいのか分からない。先行事例を参考にしたいけれど、どう調べればよいのか分からない…。そんなお悩みを解決するサービスが誕生しました。

「デジタルミュージアム・デジタルアーカイブ 事例データベース」は、約700館・機関が導入する博物館クラウドI.B.MUSEUM SaaSに搭載された情報公開機能を活用したデジタルアーカイブのWebページをデータベース化したもので、400例以上を収録しています。近隣の事例を探したい時は都道府県名で、前提条件に近い事例を探したい時はタイプ別に絞り込み、検索結果から実際のページにアクセスすることができます。



また、構築の背景やポイントが分かる取材記事付きの事例も多数収録。これから具体的な検討を始める場合はモデルケース探しに、すでに公開中であれば今後の改善のためのヒント

探しにと、幅広い場面でご利用いただけます。詳しい利用方法などは最終ページに。ぜひご覧ください。



「デジタルミュージアム・デジタルアーカイブ 事例データベース」  
[https://jmapps.ne.jp/digital\\_archive\\_db/](https://jmapps.ne.jp/digital_archive_db/)



## 100周年を目指して、区民とともに育てるデジタルアーカイブ

自治体が公開するデジタルアーカイブに地域住民が参画！ 官民一体の企画はうまく行けば活気ある運営を期待できますが、文化資源の情報提供にはまず何よりも正確性が求められるもの。活気と正確性はともすれば両立しづらい要素でもあり、また「住民参加の仕組みを作っても実際に参加が得られるのか」などの不安もあってか、実行に踏み出す機関はさほど多くはありません。そんな中、住民からの積極的な投稿で充実のコンテンツを実現しただけでなく、新たなコーナーを増設するほどの勢いを得た事例も。ここでは、住民パワーで成長を続ける「目黒デジタルアーカイブ100」をご紹介します。

### サイト名に込められた「成長」への想いと実践

このWebサイトは、目黒区制施行90年にあたる令和4年に開設されました。名称の末尾の「100」という数字は、100周年に向けて情報の蓄積・公開を加速していこうという想いのあらわれ。多様な情報を組み

込みながら、デジタルアーカイブとしての面積を増床していくようなイメージで企画されたそうです。

コンテンツは区政資料のほか風景や伝統芸能、区民の思い出、いきもの、みどりの散歩道など9つのテーマから成り、すでに完成しているのは7つ。公開中の「目黒区立中学校の統合」というテーマは構築時には予定になかったのですが、統廃合の

### 目黒デジタルアーカイブ100

Overview

Digital  
Archive

#### 提供機関

東京都目黒区

#### URL

<https://meguro-archive.jp/>

#### 構築方式

オリジナルサイト・リンク方式

対象になった学校の関係者から「写真をデジタルアーカイブに収録してもらえないか」という相談が寄せられたのを受けて新たに追加されたものだそうです。内容も充実しており、「成長するデジタルアーカイブ」という意味では早くも大きな成果を挙げたこととなります。

### ショーウィンドウとしてのトップページ、中に入ると3Dマップとデータベース

トップページは、各テーマへの入り口。ここでは、表示されているリンクから「みどりの散歩道」に入ってみましょう。ページには9つの散歩コースが用意されていて、それぞれ「3Dマップで見ると」「百科事典で見ると」というボタンが。ここで言う百科事典とはデータベースのことなのですが、少しでもイメージしやすいようにという気配りが伝わってきますね。

では、散歩道のひとつ「01.駒場コース」を開きましょう。





空撮動画が、なかなか迫力のある動画で思わず見入ってしまいますが、実はGoogle Earthを活用したものです。その下には学校の沿革が掲載されており、校章とその由来の説明に続いてそれぞれのテーマを象徴する写真入りボタンが並んでいます。試しに「生徒提出の思い出写真」を開いてみると、再びI.B.MUSEUM SaaSによる検索結果一覧画面が。「晴れた日も雨の日も外を見るといつもこの校舎が見えていた」といったコメント付きで、学校の日常のひとコマを閲覧することができます。一連の写真は、それが卒業アルバムには載らないような何気ない風景であるほど、卒業生にとってはのちのち大きな意味を持つてくるはず。まさに地域に住む、あるいはかつて住んでいた方々の思い出が詰まったアーカイブであるわけです。



「みどりの散歩道コース>01.駒場コース」という分類で検索した結果一覧が直接開く仕組み。このコースだけで60件以上の情報が収録されていることが分かります。



3Dマップには、国土交通省のプラットフォームである「PLATEAU」が使われています。鳥観図の視点で散歩道を眺めながら、見たい場所の情報を開くことができます。見やすい地図から感覚的に選ぶことができるので、とても使いやすいですね。一方の百科事典、つまりデータベースにはI.B.MUSEUM SaaSが採用されており、

### 区民がデジタアーカイブに持ち寄った、中学校の思い出

トップページに戻り、先ほどご紹介した「目黒区立中学校の統合」というテーマを開きましょう。ここでは学校ごとのページが用意されていて、各校のページに入ると校舎と周辺を鳥のように飛び回る視点の





「昔の風景写真・航空写真」もすごいです。「校内案内」を選び、航空写真に表示されたポイントをひとつ選択すると、なんとその場所を撮影したYouTube動画が流れます。たとえば「3年生昇降口から3年A組まで」なら、下駄箱からポスターが貼られた廊下を通して階段を昇り、教室へと進む様子を臨場感たっぷりの映像で見ることができるのです。しかも、BGMは校歌！卒業生なら思わず涙ぐむことでしょう。

### 他部門の協力と区民投稿の仕組みで、さらなる成長へ

区民なら何時間も楽しめそうな充実度ですが、このサイトのデータ登録などを担当しているのは、実質お一人とのこと。昔の写真や散歩道などいわゆる地域情報のコンテンツの多くは、地域に住む住民の方々が提供したものです。そのほか専門知識が必要なテーマもありますが、たとえば地域に生息する生物の情報では都市整備部

みどり土木政策課が発行した冊子「めぐろのいきもの80選」を活用するなど、正確性にもしっかり気を配っているそうです。

同サイトでは、現在も桜や生きもの、それに祭や公園などにまつわる投稿を募集中。投稿には専用のフォームが用意されており、投稿ポリシーに同意するプロセスを経るスタイルが採用されています。ネット上のやり取りで心配なトラブルも、今のところは生じていないとのことでした。

行政の組織力に加えて、区民の活力を取り込む形で育っていくデジタルアーカイブ。区制施行100周年は2032年ですから、「目黒デジタルアーカイブ100」はこれからも成長を続けていくことでしょう。





## 小さく生んで大きく育てる、持続可能なデジタルアーカイブ

長井市デジタルアーカイブ

最上川の舟運で栄え、約500種100万輪のあやめが群生するあやめ公園をはじめ、ながい黒獅子まつりや桜・白つつじ・あやめなど四季を通じて話題と見どころが多い山形県長井市。令和6年12月に開設した市のデジタルアーカイブでは、市制60周年事業として編纂した全6巻の市史で紹介されている資料をはじめ、歴史・芸術・文化に関する2,000件近い資料が公開されています。現在の規模はまだ大きくはありませんが、オリジナルで制作した特設サイトとの連携で、効果的に見せる工夫が満載。「小さく生んで大きく育てる」お手本のような仕上がりです。

### 「推し」と市史、施設を バランスよく紹介

では、特設サイトの内容をざっと確認していきましょう。I.B.MUSEUM SaaSのデータベース公開ページ開設から約2か月後に設置されたもので、名称は「長井市デジタルアーカイブ」。トップページ上部の一番右にある「収蔵品をさがす」ボタンをクリックすると、ジャンル別に検索結果を表示するデジタルアーカイブへの入口へと移動します。まだ準備中の分野の方が多いのですが、シンプルながら活力を感じるこの特設サイトのおかげで、すでにデジタルアーカイブとしての将来性が伝わってきますね。

トップページでは、特設サイトの目玉となる「おすすめコンテンツ」の3つの大きな画像が目を引きまます。これは、「この地を知らない方でも気軽に検索できるように」という配慮から設置された、ひと目で分かるリンクボタン。たとえば、先頭の「長沼孝三の彫塑をめぐる」をクリックして開くと、彫刻家・長沼孝三の人物像やコレクションの

特徴についてのコンパクトな解説ページが表示されます。読み終わったら「長沼孝三の彫塑をめぐるはこちら」のリンクをクリックし、データベースで検索した状態のコレクション一覧画面に直接ジャンプすることができます。

Overview

#### 提供機関

山形県長井市

#### URL

<https://yamagata-nagai-archive.jp/>

#### 構築方式

オリジナルサイト・リンク方式

Digital  
Archive



長井市デジタルアーカイブ

デジタルアーカイブについて おすすめコンテンツ お知らせ 長井市史 刊行物 市内の文化施設 収蔵品をさがす

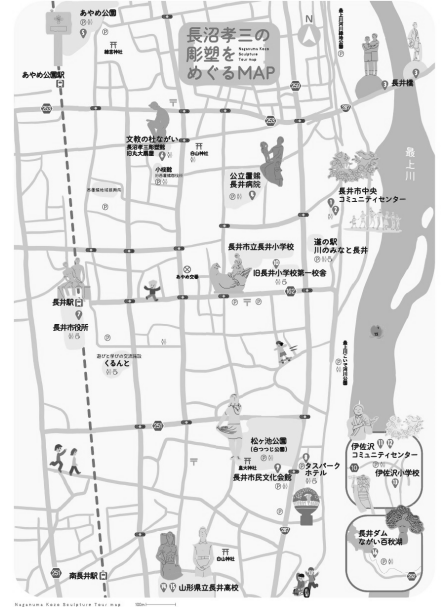
おすすめコンテンツ



長沼孝三の彫塑をめぐる  
# 彫刻 # 長沼孝三

菊地隆知コレクション1  
# 版画 # 菊地隆知

芳文庫ギャラリーコレクション  
# 彫刻 # 芳文庫ギャラリー



山形県長井市 デジタルアーカイブ

検索トップ | 検索結果一覧

キーワード:  検索

分類:  検索

大分類:  展示  企画  研究  刊行物

中分類:  検索

目録情報:  資料番号やキーワード・IDで絞り込む  掲載種別で絞り込む  資料の年代や作成日(年)で絞り込む  資料の形式(形式)で絞り込む  資料の言語(言語)で絞り込む  資料の形態(形態)で絞り込む  資料の媒体(媒体)で絞り込む  資料の用途(用途)で絞り込む  資料の保存状態(保存状態)で絞り込む  資料の保存場所(保存場所)で絞り込む  資料の保存方法(保存方法)で絞り込む  資料の保存期間(保存期間)で絞り込む  資料の保存責任者(保存責任者)で絞り込む  資料の保存責任部署(保存責任部署)で絞り込む  資料の保存責任者名(保存責任者名)で絞り込む  資料の保存責任部署名(保存責任部署名)で絞り込む  資料の保存責任者名(保存責任者名)で絞り込む  資料の保存責任部署名(保存責任部署名)で絞り込む

検索結果: 1/2 2/3 3/4

<p>長沼孝三の彫塑をめぐるMAP</p> <p>大分類: 展示 中分類: 企画 掲載日: 2019/03/20</p>	<p>長沼孝三の彫塑をめぐるMAP</p> <p>大分類: 展示 中分類: 企画 掲載日: 2019/03/20</p>
<p>長沼孝三の彫塑をめぐるMAP</p> <p>大分類: 展示 中分類: 企画 掲載日: 2019/03/20</p>	<p>長沼孝三の彫塑をめぐるMAP</p> <p>大分類: 展示 中分類: 企画 掲載日: 2019/03/20</p>
<p>長沼孝三の彫塑をめぐるMAP</p> <p>大分類: 展示 中分類: 企画 掲載日: 2019/03/20</p>	<p>長沼孝三の彫塑をめぐるMAP</p> <p>大分類: 展示 中分類: 企画 掲載日: 2019/03/20</p>
<p>長沼孝三の彫塑をめぐるMAP</p> <p>大分類: 展示 中分類: 企画 掲載日: 2019/03/20</p>	<p>長沼孝三の彫塑をめぐるMAP</p> <p>大分類: 展示 中分類: 企画 掲載日: 2019/03/20</p>

Copyright © Nagai City. All Rights Reserved.  
山形県長井市デジタルアーカイブシステム開発: WASEDA

トップページに戻って少し下にスクロールすると、市史のコーナーがあります。ここでは、市制60周年の記念事業として編纂された全6巻の紹介に加えて、データベースから約900件の資料を閲覧できる「長井

市史ダイジェスト」を用意。通史全4巻・各論全2巻から、主要な資料の図版と解説の要約が収録されています。市史本体の収録資料すべてを並べると大変なボリュームになりますが、このダイジェスト版なら市史の全体像や魅力の大枠を短時間で把握することができますね。また、市史に関しては不定期連載のコラムもあり、現在は第1話を公開中。今後の続編が楽しみです。

「市内の文化施設」では、長井市古代の丘資料館、文教の杜ながい、長井市民文化会館という3つの个性的な施設が紹介されています。ボタンをクリックすると、それぞれの特徴を簡潔にまとめたテキストを添えたエントランスページが表示され、リンクからは各施設のホームページへ。観光客に向けた文化施設の分かりやすい案内として、効果的に機能しています。

この特設サイトは全体的にシンプルな印象ですが、長井市を訪れる観光客や興味を抱いた人々が市の歴史や文化にまつわる情報を気軽に調べる上では要点を押さえ

たとえ便利な作り。なお、先ほどの「長沼孝三の彫塑をめぐる」の検索結果一覧ページからは街歩きに使える彫塑マップのPDFファイルをダウンロードできるなど、実用的なサービスも内包しています。

### 「未完成」「成長途上」は、裏を返せば「将来性」

さて、特設サイトと連携するデジタルアーカイブでは、2,000点近い作品・資料が公開されています。前述の通り「収蔵品をさがす」のコーナーでは閲覧できる分野をじっくりと見渡せるボタンがずらりと並んでいますが、とはいえ、まだ「準備中」の方が多い状態。このような場合、かつては「もっと公開データが揃ってから公開した方がよいのかな」と考えるケースが多かったのですが、最近は「小さくスタートして少しずつ拡張しよう」というコンセプトで公開を早める事例が増えています。

実は、この方法は、閲覧者に対して今後の展開への期待感をアピールするコツでもあります。アクセスするたびに「おっ何か増えているな」と感じさせれば、「また覗いてみようかな」という気持ちを刺激するきっかけにもなるわけですね。長井市デジタルアーカイブも実際にデータが随時追加されている上に、情報さえ揃えば自由にコンテンツを増やせる仕様なので、郷土作家や名所などのテーマを追加することも可能。未完成であること、成長途上であることは、うまく活かせばデジタルアーカイブとしての将来性の訴求にもつながるのです。

### 「小さく始めて大きく育てる」 モデルケースとして

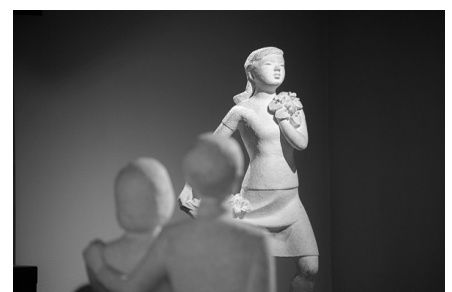
データベースシステムを導入したのは令和6年10月で、その2か月後にデジタルアーカイブを公開。そこからさらに2か月後に特設ページを開設…と、驚くべきスピードで情報発信体制の整備が進む長井市。とても力強く歩んでいる印象ですが、これは「最初から完璧を望まない」という柔軟な方針の賜物とも言えます。

注目したいのは、「後から追加が可能な仕組み」「少人数でも運用できる体制」の2点。公開情報の器となるクラウドサービス I.B.MUSEUM SaaSの月額利用料は登録・公開データを増やしても常に一定ですので、公開できるデータが整い次第、自由に追加していくことができます。また、連携する特設サイト側も、「おすすめコンテンツ」をはじめ多くのコンテンツが職員だけで編集可能な仕様となっている点もポイント。大きく育てるための環境を確保できれば、小さく始めてもまったく問題ないわけですね。



もうひとつ、この事例でお伝えしておくべきことは、スタート時とその後の人員配分の妙です。開設に向けてのデータづくりでは地域おこし協力隊の方々が大活躍しましたが、その後は担当課の職員と元職員を含む3名の臨時職員の方がコツコツと作業を続けています。データの追加は地味で根気が必要な作業となりますので、いかに継続できるかが「成長するデジタル

アーカイブ」の実現の鍵となるのですね。今回は実際に現場取材しましたが、「地域の魅力を知らせたい、次代に伝えていきたい」という職員の皆さんの想いが伝わってきました。デジタルアーカイブの成功は、まずは最初の一步を踏み出す決断と、ゆっくりでも歩みを続ける持続可能性にあるのです。



## 入門者からディープなファンまで、 誰にも使いやすいデジタル図録

杉浦非水デジタルアーカイブ

「推し活」という言葉が浸透した昨今、美術館によく足を運ぶ方の多くは「推しの作家」がいるのではないのでしょうか。気に入った作品を見つけると、その作家のほかの作品や人物像へと関心が広がるもの。でも、作家情報に特化したデジタルアーカイブは意外なほど少なく、探すのが難しかったりします。そんな中、愛媛県美術館では、日本におけるモダンデザインの先駆者として高く評価されている杉浦非水のデジタルアーカイブを公開中。作品が生まれた背景に思いを馳せ、「もっと見てみたい」という気持ちを高めてくれる魅力的な特集サイトに仕上がっていますので、少し深掘りしてみましょう。

Overview

Digital Archive

**提供機関**  
愛媛県美術館

**URL**  
<https://www.ehime-art.jp/sugurahisui/>

**構築方式**  
オリジナルサイト・Web API

### 作品の魅力に引き込む たくさんの道筋

杉浦非水デジタルアーカイブの鑑賞体験は、作品画像がゆっくり流れるトップページから始まります。こうしたデザインはデジタルアーカイブのトップページでよく見かけますが、このページは上下に大きく1~2作品が見やすく配置されていてスピードもゆっくりなので、展示室を歩くような感覚で眺めることができます。気になる作品があれば、その場でクリックして作品情報の画面②へ。さらに「収蔵品詳細へ」

① 検索結果一覧  
ここでは、「ポスター」で検索。

② 作品情報  
検索結果一覧から一つのポスターを選ぶと開く、そのポスターのページが開きます。

③ 収蔵品詳細  
作品情報内の「収蔵品詳細へ」のボタンをクリックすると、I.B.MUSEUM SaaS の公開ページが開きます。このページにはより詳しい情報が掲載されています。

Web APIを使ったオリジナルのページ

I.B.MUSEUM SaaS のページ

ボタンをクリックすると、作品データベースの画面③が開きます。

作品情報の画面では画像と作品名、制作年、技法・材質、寸法と基本的な情報が表示されていますが、これはWeb APIを活用してオリジナルで制作したデジタルアーカイブサイト内のページ。一方、より詳しい情報を掲載しているリンク先のページは、

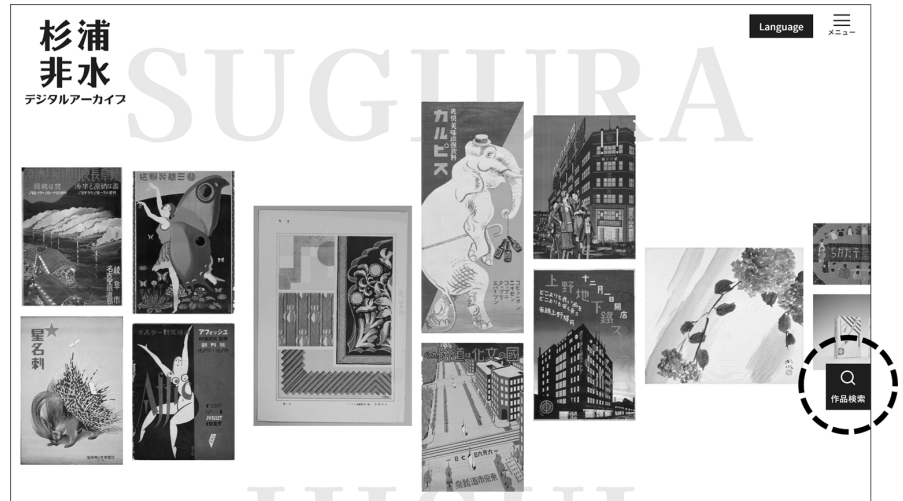
I.B.MUSEUM SaaSの情報公開機能で構築したものです。I.B.MUSEUM SaaSでは公開するデータ項目を自由に追加・変更できますので、将来さらに詳しく情報を拡張する必要性が生じた際にも、コストをかけることなく柔軟に対応可能。つまり、より専門性の高い詳細情報の提供をリンク先に任せることで、デジタルアーカイブ上の作品情報ページはデザインの統一感に

こだわることでもできるわけです。

さて、Web APIを使ったオリジナルサイト側の作品情報ページには、下におすすめの関連作品が表示されています。直感のままに気になる作品をクリックするとその画面へ、さらにまた次の関連作品へ…という具合に無限に続いていくのですが、実はこれ、ページを開くたびにランダムに入れ替わります。同じ作品ページでも、リロードすれば異なる作品が現れるわけですね。



似た形で、トップページの真ん中あたりにも6つの作品の画像が並んでいます。ところが、リロードしてもそのまま同じ画像が表示されます。なぜなら、こちらは「よく見られている作品」という主旨でチョイス



されているから。つまり、デジタルアーカイブでよく閲覧されている人気作品が並んでいますので、ごく自然な動線でサイトの自慢の作品へと誘導できるのです。もちろん、ここで選んだ作品のページでは、上記のランダム表示による関連作品が。このように、とにかく利用者を飽きさせないよう、さりげない工夫が満載されています。

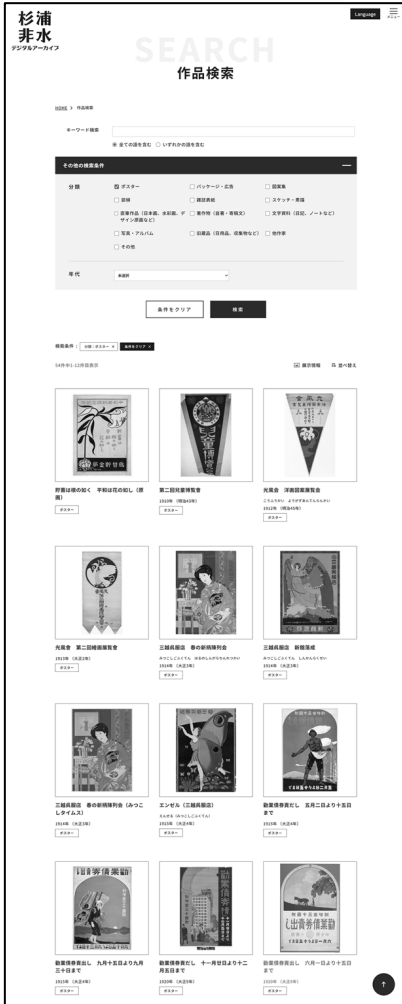
### 作品検索はシンプルで使いやすい

前述の通り、トップページのファーストビューではたくさんの作品画像が流れていますが、「特定の作品を探している」「あるカテゴリの作品に絞って閲覧したい」という方にとっては、キーワードを入力する検索ボックスを探すのが少し手間に感じるかも知れません。そこで、画面右に大きなアイコンを固定し、即座に詳細な分類と年代の指定も可能な検索トップへとジャンプできるようにひと工夫。これなら画面のどこにスクロールしてもボックスを探すことなく、すぐに検索を開始できるわけですね。

そのほか、主なジャンルのコーナーには6個の分類ボタンが。いずれかひとつをクリックすると、その分類に該当する作品がすぐに表示されます。ポスター、パッケージ・広告、図案集、装丁、雑誌表紙、スケッチ・素描と分類名も分かりやすいので、何も考えずに美しい作品群にアクセスすることができます。このように、ライトユーザーとヘビーユーザー、どちらの方にとっても使いやすい丁寧な画面設計が秀逸です。

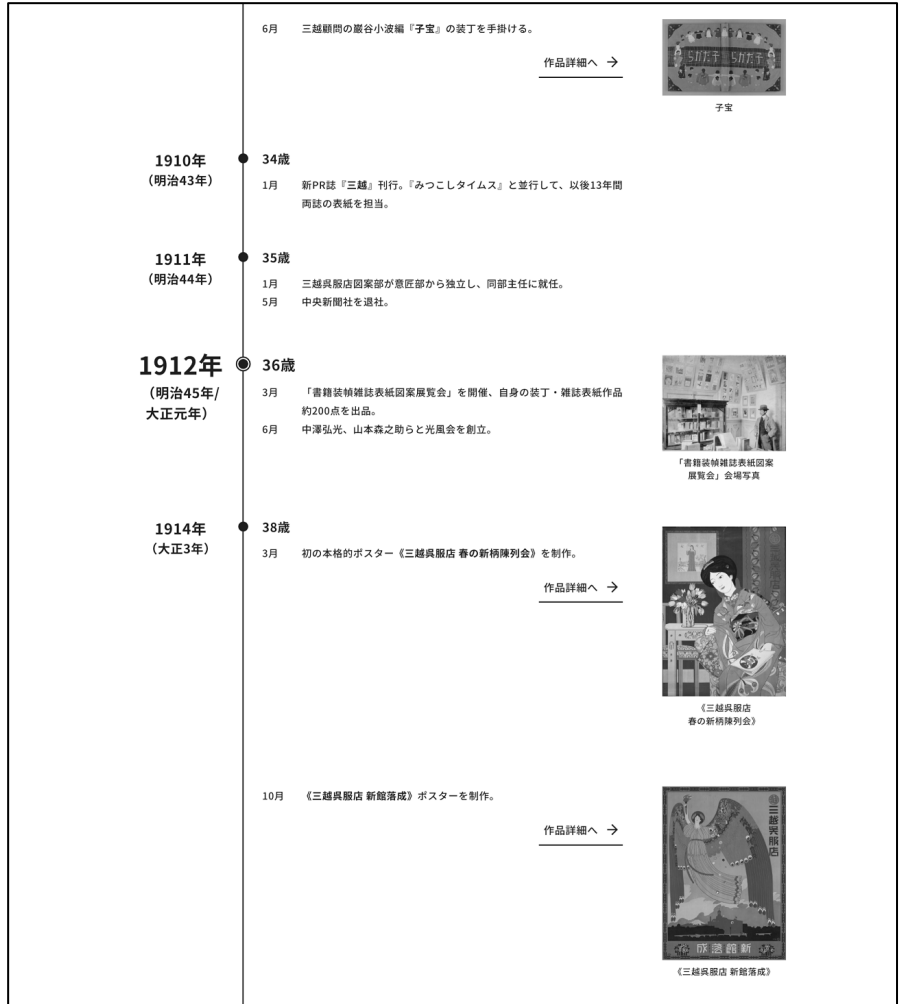
遷移先の作品検索では、検索結果は別画面ではなく同じ画面の下に表示されます。検索パネルと結果一覧が同じページに収まっていることで、最初に選んだ分類に別の分類を加えた新たな条件で検索を再実行する時も画面を往復するストレスがなくなり、求める情報に辿り着きやすくなります。

さらに面白い機能として、検索実行ボタンの右下、「並べ替え」と並んだ「展示情報」という小さなボタンにご注目。ここからは、現在展示中の作品と他館へ貸出中の作品に絞り込むことができます。「いまならどの作品を見ることができるの?」というよくある疑問を瞬時に解決できますので、お出かけの際には必見の機能になりそうです。



### 生涯の年表から各時期の代表作へと誘導

さて、トップページを下にスクロールすると、「非水の生涯」というコーナーがあります。ここでは、作家の略歴のほか、「東京美術学校卒業まで」「図案家としての活躍」など彼の生涯を時系列に区切ったボタンが。「詳しく見る」をクリックすると年表が表示されるのですが、年代の区切りのボタンからは特定の時期に直接ジャンプすることができます。



こうした年表を使った表現は、特定の作家に関する展覧会の会場ではお馴染みですね。生誕から没年まで生涯の主な出来事を並べるわけですが、展示室内のパネルとは異なり、その時期の代表作などへのリンクを設置するなどデジタルならではの強みを活かすことができます。ここでも、年表の右に置かれた「作品詳細へ」のボタン詳細ページに飛ぶことができます。

何か特定の作品に関心を持ってくれた方から、作家のディープなファンの方まで。杉浦非水デジタルアーカイブは、さまざまな利用者のニーズに応えながら作品情報へと誘うよう、とても緻密に設計されていることが分かります。作家やテーマに特化したデジタルアーカイブの構築をご検討なら、ぜひ参考にしてみてはいかがでしょうか。

## データベースを活かした奥行きあるコレクションページ

三菱一号館美術館

多くの美術館ホームページは所蔵作品の概要を紹介するページを設けていますが、作品データベースを公開しているなら、検索トップへのリンクボタンを設置するだけでは少しもったいないかも。と言うのも、検索結果一覧は「その条件に当てはまる作品群」を意味しますので、代表的なコレクションを紹介するコーナーを設けて検索結果一覧へと誘導する動線を作ることで、サイトとしての奥行き感を演出することができるからです。とてもシンプルでありながら、データベースの存在感をホームページに活かす賢い使い方。ここでは、そんな好事例として三菱一号館美術館のコレクションのページを紹介します。

Overview

Digital  
Archive

### 提供機関

三菱一号館美術館

### URL

<https://mimt.jp/collection/>

### 構築方式

館ホームページ・リンク方式

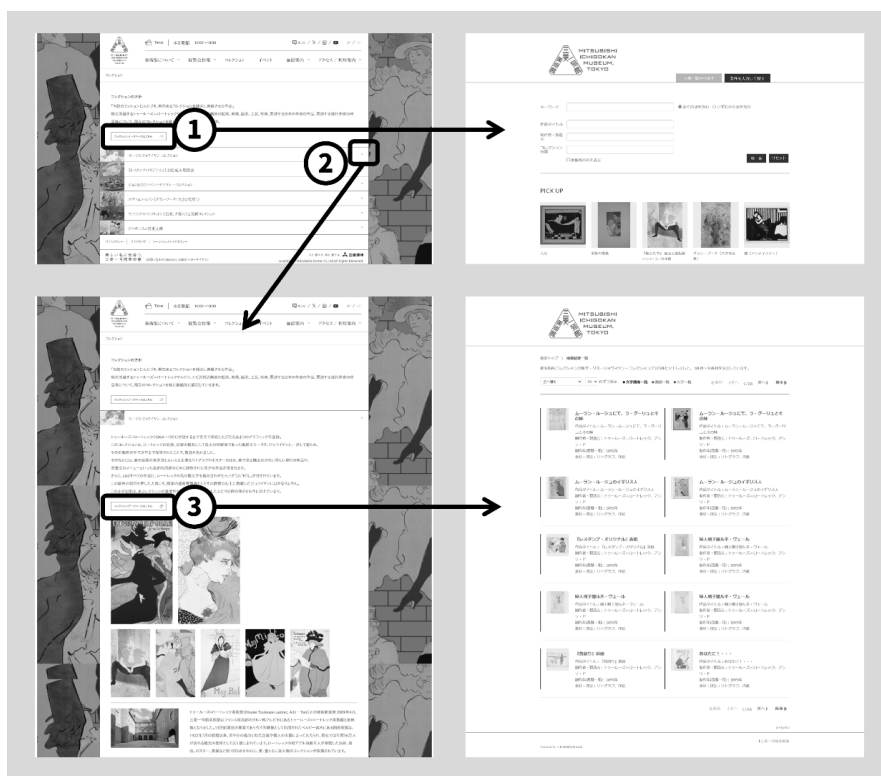
まず、トップページ上部のリンクから「コレクション」を選びます。表示された方針についての説明のすぐ下に置かれた「コレクションデータベースはこちら」というボタン①をクリックすると、データベースの検索トップが開きます。館の方針を確認したら、それに基づいて収集された所蔵作品を検索できる最短距離の動線が用意されているわけですね。

でも、ここで注目したいのはボタン①の下です。代表的なコレクションを紹介する記事が特集的に並べられており、右側のボタン②から詳細な解説と作品例を閲覧することができます。そして、6つのコレクションテーマのうち4つには「データベースはこちら」というボタン③があり、これをクリックするとそのコレクション分類で検索した結果の一覧画面が。たとえば、一番上の「モーリス・ジョワイヤン コレクション」では、コレクション分類に「モーリス・ジョワイヤン・コレクション」と入力して検索した状態の結果一覧が表示され、そのまま275点もの関連作品の詳細情報へと進むことができます。

膨大な数の作品を含むコレクションをホームページで紹介する場合、ただ漫然とすべてを掲載しても利用者の心にはなかなか届きません。そこで、先にコレクションの全体像とその魅力をざっくりと理解してもらった上でデータベースへと誘導すれば、

無理なく索引情報を紹介することが可能となります。

シンプルですが、とても効果的な「見せ方」ですね。データベースを活用してコレクションページに奥行きを与える方法、ぜひご参考に。



## Web API活用のススメ

博物館法の改正などを背景にデジタルアーカイブに取り組む館が増え、魅力的なデジタルミュージアムが次々に誕生する昨今。そんな中で新たな課題として浮上しているのが「打ち上げ花火的な一過性の制作物ではなく、確かな資料データに下支えされた奥行きがあり持続可能な情報サービスを作る」という視点です。最新技術を駆使した人目を惹くコンテンツやインターフェイスを構築しつつ、そこに膨大な収藏品データを供給し続けるとなると、学芸員の日常には公開用データの整備という新たな業務が加わることになります。ただでさえマンパワーに限りがある中、新規に重い業務負担が増えるのは「かなり厳しい」と頭を抱えるミュージアムも多いはず。「更新できない」

「情報が増えない」状態が続いた結果、継続不能に陥るケースも少なくありません。そこでご注目いただきたいのが、データを気軽に活用できるWeb API機能です。I.B.MUSEUM SaaSの公開機能では、別途構築された外部のデジタルミュージアムにもデータを配信することが可能。連携のための設定を済ませておけば、システム上でWeb APIへの出力ボタンをONにするだけで、日々の業務で蓄積しているデータをそのままデジタルミュージアムのコンテンツへと転用することができるのです。

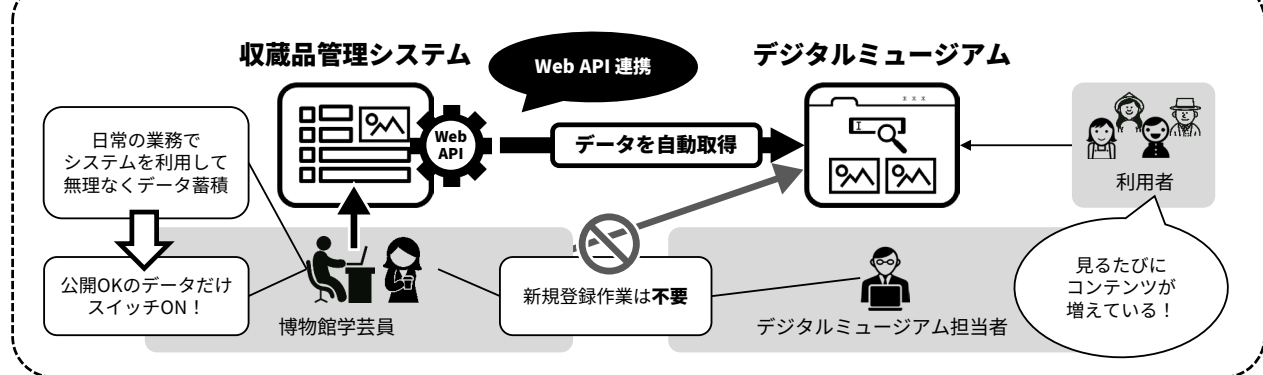
もちろん、業務データを解説文として使う場合は一般向けに内容を軽くアレンジする作業が発生する場合がありますが、公開用のデータをイチから登録し直したり、完成したデータをまとめてデジタルミュージアムの管理者に提出したりする作業は一切不要。学芸員の労力を大幅に削減することができます。

無理なく情報発信を続けたいミュージアムにとっては心強い味方になるWeb API。ご興味がおありの方は弊社スタッフまで、ぜひお気軽に。

### Web API【Web Application Programming Interface】

Web APIとは、HTTPなどのWeb技術を応用して、あるコンピュータで動作しているソフトウェアの機能を、ネットワークを通じて他のコンピュータから利用できるようにする仕組み。  
IT用語辞典 [https://e-words.jp/w/Web\\_API.html](https://e-words.jp/w/Web_API.html)

### Web APIを使った情報発信の負担軽減



## 編集後記

この1月に開催されたデジタルアーカイブ学会の研究大会に参加してきました。テーマは「デジタルアーカイブ基本法」で筆者は法律に疎いのですが、場の空気から察するに、これは何かを義務化するニュアンスではなく、これからデジタルアーカイブ事業を進めていきたいという意欲を持つ館に対し予算の裏付けなどで味方になってくれるもののように感じました。博物館の皆様におかれましても、ぜひ詳しくお調べになることをおすすめしたいと思います。

こうした法整備からも分かりますが、デジタルアーカイブに関する社会的な関心はかつてないほどの高まりを見せています。弊社にもこれまで以上に多数のお問い合わせをいただくようになりましたが、最近は具体的なご相談が目立ちます。こうした動きを受けて、弊社では先般「デジタルミュージアム・デジタルアーカイブ事例データベース」を開設いたしました。先行する館はどんなサービスを展開しているのか、どこに力を入れているのか…といった情報を視覚的に理解できる参考資料として拡充して参りますので、こちらにもご注目いただければ幸いです。

そんなわけで、今回のMAPPS Pressは「デジタルアーカイブ特集」としてお届けいたしました。と言うより、詳しい経緯やポイントなどを把握していることからI.B.MUSEUM SaaSの活用事例集となりましたが、ほかにも弊社スタッフが驚くような斬新なアイデアが光る事例も続々と誕生しています。これからデジタルアーカイブ事業に着手する館にとって大きなヒントとなりそうなケースも増えていきますので、今後も積極的にお届けして参ります。